

阪大外国語学部×

みのお市民活動センター

マンスリー多文化サロン

毎月 第3木曜日

<定員>

20人

(申込順)

12/3(月)から

受付開始

<参加費>

300円

資料・茶菓代

中国の
お茶やお菓子も
お楽しみに！

中国から注がれる熱いまなざし ーインバウンドツーリズムの可能性についてー

昨年、日本を訪れた外国人観光客は2900万人。外国人の日本国内消費額も4兆円を突破し、中国からの観光客の一人当たり平均消費は、23万円でトップ。韓国、中国、香港、台湾を合わせると全体の45%にも及びます。なかでも関西地区、大阪は2009年から2016年のインバウンド観光客の伸び率は平均24%以上、世界でトップクラスとなっています。なかなか直接接することのできない中国からの旅行客は、いったいどんな関心を持ち、どんな背景で、どんな情報をもとに日本に来ているのでしょうか？日本に来られる中国の人たちの気持ちになって、日本を眺めてみたいと思います。

講師：深尾葉子（大阪大学言語文化研究科准教授）

中国内陸部黄土高原の村を25年間訪れ続け、地域と自然環境の相互作用について研究している。2008年から2018年まで大阪大学経済学研究科に在籍し、里山のグローバル・マネジメントや越境する環境マネジメントを研究。新刊に『黄砂の越境マネジメントー黄土・植林・援助を問い直す』（大阪大学出版会 2018）があり、常識や学問、制度の枠組みに囚われないものの見方の重要性を指摘。



日時：2018年12月20日(木)

19時～20時30分

場所：みのお市民活動センター

箕面市坊島 4-5-20 みのおキューズモール WEST1-2F

☎072-720-3386

主催：大阪大学外国語学部・みのお市民活動センター



2021年4月、阪大外国語学部は、箕面船場阪大前駅（新駅）付近に移転します！

お申し込み
お問い合わせ
大阪大学
外国語学部
☎ 072-730-5013
FAX 072-730-5009



本活動は、
「大阪大学社会学共創クラスター」
の取り組みの一つです。
<https://www.ucc.osaka-u.ac.jp>

* 各開催月の1日（土日祝を除く）から受付開始

2018年10月18日(木) 19時～20時30分

「遠くて近き」仲—東西ユーラシアを結んだ日本とスウェーデンの関係史

古谷大輔（大阪大学言語文化研究科准教授）

明治維新 150 周年を迎えた 2018 年は、日本・スウェーデン間に外交が樹立されて 150 年の年でもあります。そうした見方は国家間の関係としては事実でしょう。しかし江戸時代にはスウェーデン人が日本人と交流し、ヨーロッパにおける日本イメージの生成に貢献していました。未だ知られざるそうした例をたどりながら、東西ユーラシアを結び、ヨーロッパを刺激した日本とスウェーデンの関係について語りましょう。

2018年11月15日(木) 19時～20時30分

南スーダンってどんなところ？—日常生活をのぞいてみよう—

仲尾周一郎（大阪大学言語文化研究科助教）

2011 年に独立した世界で最も新しい国、南スーダン。日本では自衛隊の派遣について多くの報道がありました。日本では、今も紛争が続くアフリカの奥地の最貧国の一つ、というイメージがあまりに強いのではないのでしょうか。本講演では、言語学者として南スーダンの人々と関わってきた経験をもとに、彼らがどのような価値観をもち、どんな音楽を聴いて、何をして遊んで、何を食べているのかをご紹介します。普段耳にすることの少ない、意外と(?)グローバルでコスモポリタンなアフリカの実際にほんの少し近づいてみましょう。

2018年12月20日(木) 19時～20時30分

中国から注がれる熱いまなざし—インバウンドツーリズムの可能性について—

深尾葉子（大阪大学言語文化研究科准教授）

昨年、日本を訪れた外国人観光客は2900万人。外国人の日本国内消費額も4兆円を突破し、中国からの観光客の一人当たり平均消費は23万円でトップ。韓国、中国、香港、台湾を合わせると全体の45%にも及びます。なかでも関西地区、大阪は2009年から2016年のインバウンド観光客の伸び率は平均24%以上、世界でトップクラスとなっています。なかなか直接接することのできない中国からの旅行客は、いったいどんな関心を持ち、どんな背景で、どんな情報をもとに日本に来ているのでしょうか？日本に来られる中国の人たちの気持ちになって、日本を眺めてみたいと思います。

2019年1月17日(木) 19時～20時30分

ブラジルの社会と文化はどのように形成されてきたのか

アキチ デゼン ロジェリオ（大阪大学言語文化研究科特任准教授）

東明彦（大阪大学言語文化研究科教授）

本講演では、ポルトガルによる植民から今日までの歴史を振り返り、ブラジル人を形成してきた三つの主要なエスニック集団（白人、黒人、先住民）間の関係や大陸規模の国土を有するブラジルの地勢、現代のブラジルに見られる地方的な、また社会文化的な差を概観します。さらに、日常生活の多くの面で見られる混血の問題に焦点を当て、「混血の文化と社会」が何を意味するのか、それを明らかにするのがいかに難しいかについて考えます。

2019年2月21日(木) 19時～20時30分

イラン式結婚

ジャヘドザデ ショルブラグ ベヘナム（大阪大学言語文化研究科講師）

結婚はイラン社会における最も重要な儀式の一つです。結婚によって男女が社会的、法律的に結ばれ、家族の基盤が生まれます。かつて、結婚は部族内の結びつきを強めるためのものでしたが、核家族が増加した現在結婚の形も変わりつつあります。イラン社会の中で男女がいかに知り合い、いかに結婚するのか、結婚に至るまでの流れがどのようなものなのか、結婚によって夫婦となる男女がなにを誓約するのか、イラン社会ならではの短期婚、重婚など、イラン式結婚についてわかりやすく説明いたします。

2019年3月21日(木) 19時～20時30分

イタリア～美食の旅

ベルテッリ ジュリオ アントニオ（大阪大学言語文化研究科准教授）

イタリア料理と言えば、最初に頭に浮かび上がるのはパスタやピッツァですが、実は「イタリア料理」というものはより複雑で奥が深いものです。それぞれの州、県だけでなく、そのなかの町や小さな村まで独自の名物料理を誇ります。こうして、パスタ、パン、肉料理、魚料理、デザートなどの種類は想像を絶するくらい多く存在します。また、それぞれの食べ物には歴史があり、イタリアの歴史と食文化は密接な関係に結ばれています。ここで、古代ローマから現代に至るまでの旅を楽しんで、イタリア料理の魅力を味わいましょう！

2021年4月、阪大外国語学部は、箕面船場阪大前駅（新駅）付近に移転します！



本活動は、
「大阪大学社会学共創クラスター」
の取り組みの一つです。

<https://www.ucc.osaka-u.ac.jp>



市民が運営する

箕面市立

みのお市民活動センター



〒562-0013

大阪府箕面市坊島4丁目5番20号 みのおキューズモール WEST1-2F

TEL 072-720-3386

FAX 072-720-3387

箕面駅・栗生間谷方面から 阪急バス 千里中央行き かやの中央下車
千里中央方面から 阪急バス 箕面行き・栗生団地行き萱野小学校前下車
千里中央から(直通) みのおキューズモール行きシャトルバス かやの中央下車
石橋方面から 阪急バス 茨木行き 萱野小学校前下車
茨木方面から 阪急バス 石橋行き 萱野小学校前下車